

# 部活動の試合終了後における指導 —中学校バスケットボール部に着目して—

高島 佳介 (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)  
指導教員 谷川 尚己

キーワード (中学校 部活動顧問 バスケットボール 経験者と未経験者)

## I. 緒言

学校教育における部活動は、平成20年3月中学校学習指導要領総則の中で、生徒の自主的・自発的な参加により行われる部活動が進められ、スポーツや文化及び科学等に親しませることで学習意欲の向上や責任感、連帯感に資するものであると初めて提示された。部活動の重要性については言うまでもないことであるが、部活動を指導するにあたって、生徒の良さを「引き出す」ことを大切にしていると述べている指導者がいる。その結果、優勝選手は、教師の「絶対に大丈夫、できる」という声かけによって、自信がついたとコメントしている例がある。そこで、私は部活動の指導のひとつである「引き出す」に着目し、研究することにした。中でも、本研究では、試合終了後から次の試合までの練習での期間を設定した。

## II. 調査方法

滋賀県内中学校のバスケットボール部の顧問23名(内経験者15名、未経験者8名)を対象に部活動の試合終了後における指導助言に関するアンケート調査(含む記述式)を行った。

## III. 結果と考察

顧問の先生方に選手一人ひとりの良いところと悪いところのどちらを見て指導しますかと尋ねたところ、良いところを見るについては、大変あてはまるとまあまああてはまるが65%であった。その結果から教師は、良いところを見て良さを引き出し、自信をつけさせることで部活動の楽しさと競技の楽しさをより理解させようとしているのだと考えられる。また、どちらでもないが35%であった。次に、悪いところを見るについては、大変あてはまるとまあまああてはまるが48%で一番多かった。生徒の悪いところが出ないように練習メニューを考えていると述べている指導者もいた。また、どちらでもないが43%であった。そこで記述内容を見ると教師は、生徒に悪いところをあまり出させないためにチーム練習を組み、生徒の良いところを引き出し、伸ばそうとしていると述べていた。つまり、良いところと悪いところを見て

生徒のことを理解し、指導することが大切であると考ええる。

次に、経験者と未経験者について比較することにする。良いところと悪いところを見るについて比較すると、良いところを見るについては、あてはまるが経験者60%と未経験者75%とともに高い割合であったが、未経験者の方が良いところを見て良さを引き出そうとしていることがわかる。また、未経験者は、バスケットボールの経験がないため自信もなく、自分が行っていた経験のあるスポーツと比べると述べている指導者もいた。また、未経験者の指導者は、良いところを見すぎてダメだといった意見もあった。悪いところを見るについては、あてはまるが経験者43%と未経験者63%で未経験者の方が多いため悪いところを見て改善するために指導すると述べている。しかし、指導の仕方の難しさを悩みとしている回答も見られた。つまり、未経験者はバスケットボールの経験がないため、指導の仕方を模索していることがうかがえる。

## IV. 結論

選手一人ひとりの良いところを見るについては、良いところを見ている割合が高くなっている。そして、選手一人ひとりの悪いところを見るについては、悪いところを見ている割合が高くなっている。そのことから、生徒の悪いところ見てチーム練習を組み、生徒の良いところだけを引き出し悪いところをださないように指導していると分かった。経験者と未経験者共良いところを見ている割合も悪いところを見ている割合も高くなっている。また、良いところと悪いところを見ていることが多いのは未経験者だった。しかし、記述内容の結果からその後の指導を模索しているため、これから経験者と未経験者での連携が必要であると考ええる。

## V. 参考文献

文部科学省2008: 中学校学習指導要領 東山書房